

# TRAIL RUN

トレイルランニングをこよなく愛する人たちに贈るディープな情報

157回

OCTOBER

## トレイル通信

文/吉本 亮

### 特別企画④

### トレイルレース今昔物語

### アウトドア立国 ニュージーランド ケプラーチャレンジ 2007

自身初の南半球は、トレイル率が高いニュージーランドへ。  
450人と小規模ながら世界中のランナーが集まったレースは、  
周辺の山々も施設も魅力的で、アウトドア好きには  
たまらない場所が開かれました。

#### ケプラーチャレンジとは？

「ケプラーチャレンジ」とは、ニュージーランド南島のサザンアルプス山脈の最南端、フィヨルドランド国立公園のケプラー・トラックを走るトレイルレース。距離は60km、高低差は1350mあり、最初に上り、稜線を走って下ると、残り32kmはほとんど平坦となる高速コースです。最速ランナーは4時間半でフィニッシュし、制限時間は12時間なので、制限時間をオーバーするのは1割にも満たない人数です。

北半球では冬に当たる12月に、ハイシーズンのトレイルを走れることもあり、人気の大会となっています。しかし、自然保護のために参加者は450人に絞られており、受付から数分で満員御礼。今年も、ウエイティングリストには500人以上が連なっています。  
**稜線から見える湖に興奮！**

午前6時と、まだ薄暗いなかをスタートします。出走を待つランナーの装備はバラバラで、皆、そ

れぞれ工夫を凝らしていました。筆者はライトを持つかどうか悩んだものの、持っていて正解。樹林帯に入って暗くなっても、木の根につまずくことなく安心して走れたからです。

30分も走ると給水ポイントがあり、水を飲もうと紙コップを取ると、ゼリービーンズが入っていてビックリ。水代わりに食べろ！ということかと思いましたが、水のカップも奥のテーブルにきちんとありました。階段を駆け上がった高度を稼ぎ、稜線へ。右にテ・アナウ湖が見えてテンションが上がります。

14km地点にあるラックスモア小屋では、装備のチェックがあります。筆者はポリウムゾーンを走っていたこともあり、チェックの行列で約5分待たなくてはいいけませんでした。慣れている人は、早く通過できるように、レインウェアを腰に巻いたまま装備を見せるだけなど、それぞれ工夫をしていた模様です。

筆者は稜線で体が冷えていたので、この待ち時間を利用してジャ



(上)大会前日の装備品チェックで、レインウェアのシームテープの有無を、警官がチェックしている(下)受付時に配られたパンフやサンプル一式。トートバッグは今も便利に使っています



送るが往  
ターにテ  
上る  
が

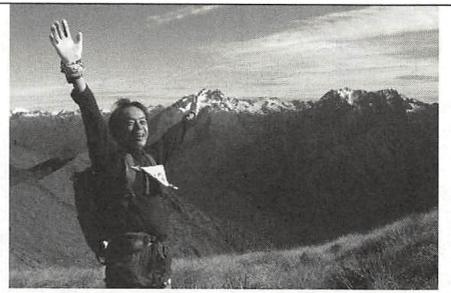
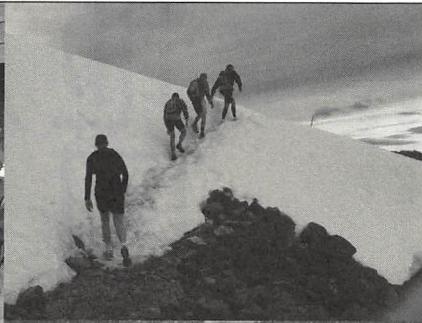
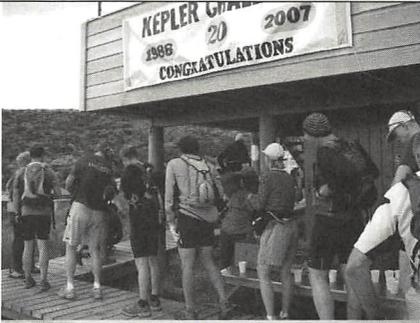
ここからは樹林帯なので、風が収まりホッとします。ただし、平地に下りてしまうと見どころはすべて終了。あとはスタート・フィニッシュ地点に戻るための道なので、すでに歩き始める人もチラホラ。エイドステーションも用意されていますが、比較的「短距離」ということもあって乾き物が多く、さらに長居すると蚊に刺されてしまうというのも難点でした。フィニッシュ地点に到着すると、係の人が完走メダルとともに缶ビールと缶ジュースを渡してくれました。うれしい配慮です。

#### 朝食を食べながらの表彰式

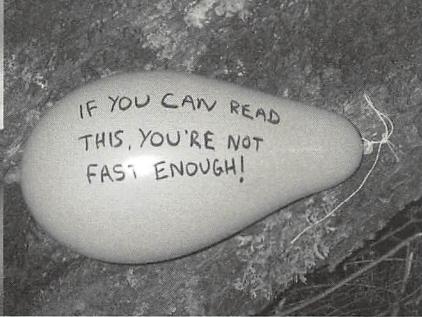
表彰式は、翌朝にブレックファーストパーティーという形式で行わ

れました。まず、テーブルに並べられた完走証を自分で取っていき、ピュッフエスタイルの朝食を食べると式がスタート。その年の優勝者は、それまで4回連続で2位止まりだったそう、念願のトップの座に、喜びもひとしおという感じでした。

主催者からレースの歴史についてなどの話があり、「また来年！」と散会に。ごちんまりとした、いい意味でラフな運営も、30年以上続く人気の大会となっている要因



周りの山々は雪をかぶっているのが見える。12月はハイシーズンで暖かい!? と思っていたが、南極に近いこともあって稜線は冷える



(右上)雪渓は寒いが、後半はほとんどが暑い平地なので、皆短パンで通り過ぎる(右下)応援メッセージと思って近づいて読んだら、「これが読めたら、あなたは遅い人です」(左上)装備品チェックのための渋滞。数人でチェックしていたが、それでも追いつかない(左下)木道を走る。濡れて滑りやすそうな平地の木道だが、鉄の網が掛けてあって安心して走れた

かもしれませんが。

### シヨートのカテゴリも人気

同じコースの前半だけを走る、ラックスモアグラントというレースも同日に開かれています。見どころの多いクライマックス的なコースを最初に走り、通り過ぎたらすぐにフィニッシュへ戻るといいう、おいしいとこ取り。当時は1500人だった枠は、現在は2000人へと拡大されています。せっかく日本から行くなら長距離を走りたい

ところですが、このレースに限って言えば、シヨートも合理的、かもしれません。

### アウトドア活動が充実!

アウトドアアクティビティが得意な国に行くのですから、さまざまな「寄り道」も楽しめましょう。山岳地帯は国が管理しており、トレイルに入れる人数は数百人に制限され、渋滞もなければ宿も激混みになりません。また、平地に戻るとバックパッカー天国でもあります。簡素で安い宿がたくさんあります。

アウトドア用品の店も充実し、「カトマンズ」というブランドが多方面に商品を展開しています。

### キウイ料理って果物?

ニュージーランドでは現地人を「キウイ」と呼び、郷土料理をキウイ料理といいます。キウイフルーツのことじゃないし、ましてや絶滅に瀕した鳥の料理でもないの

### 吉本 亮

よしもと しまこと

2002年に富士登山競走に出るも8合目手前で失格。同年の初マラソンは福知山で4時間。2週に1度はのんびりトレイル。いつもは急いでいるので立ち寄らない詞など、この際なので観察しています。

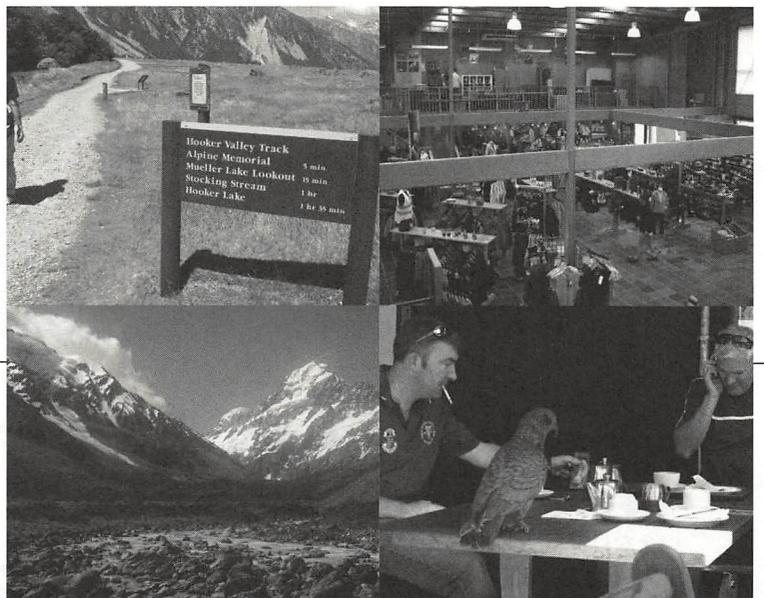


無事に8時間を切ってフィニッシュできた

ニュージーランドは英語が通じますが、マオリ語やスコットランド地方の影響を受けているため、単語や発音が違ってきます。トレッキングは「トランピング」、トレイルは「トラッキング」と言い、このレースのコースはケプラー・トラックと呼ばれています。トウデイ( Today) は、トウダイというように、発音もオーストラリア英語に近いです。

### マオリの影響を受けた英語

で安心して食べましょう。実際には焼いたポテトや焼き魚など、日本人に合う素朴な料理が多いです。



(右上)カトマンズの店内はプライベートブランドも充実。日本でいえばモンベル的な存在となっている(右下)山岳オウム[ケア]は、色が珍しく、かわいがってあげるものの、気を抜いていると食べ物や皿を取って飛んでいく(左上)山岳地帯はほぼすべてが国の管理なので、どこに行っても同じ形の道標があり安心できる(左下)壮大なNZの景色。あまりにきれいなので、今でも大きくプリントしてトイレの壁に貼りつけて、開放的な気分を楽しんでいます

### 移動はバスや列車でも

手早く移動するならば国内線の飛行機が充実していますが、日程に余裕があれば、バスや列車で景色を楽しみながらの移動がお勧めです。1日1便が主流なので、計画は入念にしておきましょう。

### 宿泊のお勧めは?

バックパッカーズが充実しているほか、ユースホステルを使う人も多いです。筆者が利用したマウントクックユースホステルは、ニュージーランド最高峰のクック山を見ながら皿洗いができる、風光明媚なキッチンでした。